

【ねがいましては】

第60号

平成5年11月30日
共和珠算学習塾

「流される」

よく、私たちの生活の中で「流される」という現象が数多くみられます。例えば昨今の、お米不足から「おとなりでは、もう30kgもお米を買いだめしてるんですって!」と聞けば、翌日それいけーっと、慌てて我が家も30kg。「〇〇さんのご主人、今年の冬のボーナス、200万も出たんですって、私たちは貧しいわねー!」といった具合。

とかく身近な世間に心が流されてしまい、特に「もの」に対する流されは顕著のようです。しかし、よく落ち着いて考えてみれば、いたって家族全員健康だし、食べるものもおいしいし、家庭の中はいつも笑いが絶えないし、と幸福な条件は満点! 何をくよくよと考えていたのだろうと、ハッときがつく始末・・・というのはよくあるケースだと思います。

同じことが子どもたちの日常の学校生活でも繰り返されています。

クラスの中で〇〇番とか、学校の中で〇〇番などと、すぐに考えてしまいます。

では、ある子が名門開成中学校の中で、学年ビリから2番目であっても、おそらくその子は公立の近隣の中学校へ通っていればおそらく「天才!」などとまくしたてられるかもしれません。開成中では「落ちこぼれ」と言われ、地元では「天才」。これ何かのなぞなぞの問題になりそうです。

逆もそうです。地元の学校ではいつもトップクラスで鼻高々! つんつんしていても、ひとたび開成中へ行ってみればガツン! と一発、しょぼくれるわけです。

というわけで、教室や学校のムードにとかく子どもたちは流され続けているわけです。それを素直に受け取っているのもお母さん方なのかもしれません。

ある学校での定期テスト、その平均点は50点だったなどと結果が出てきます。すると51点の子は結構喜びます。間違えた49点分については、どうして間違えたのだろうなどと、心は動きません。(実はここがとても大切な所なのです)

さて、ある学校では、全く同じ問題で平均87点だったとします。先ほどと同じ51点をとった子は、もう下を向いて落ち込みます。同じ51点なのに、こんなにも気分は違ってしまいます。

なんと小さな器の中で心がこんなにも動かされてしまうのかと、ため息が出ます。要は、自分を見失うなということです。周りに流されるなということです。

さて、先日私は「学校」という映画を見てきました。まあ「映画」ですから現実とは多少ずれたところも感じられましたが、その中には私にとっての「夢」のようなものが溢れていました。この「学校」の終わりに、つまりクライマックスに「人間流されちゃいけないよ」と言っているような訴えが感じられました。学校が忘れてしまった「学校らしい学校」「人情味のある温かい風」が教室の中にあふれている姿があります。

人は人なり、人らしく我が道を歩こうじゃないかと元気づけられました。

☆12月の予定

12月より珠算科ではサッカーをまねして、Jリーグなる競技を始めます。各チームともに自由に参加できます。

12月 7日(火) 検定試験合格発表

24日(金) 学習科・珠算科クリスマス会

冬期講習を今年も予定しています。詳しいことは別紙にてお知らせします。

冬休みの予定も別紙にてお知らせします。アイススケートを予定しています。